【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】平成22年2月18日(2010.2.18)

【公表番号】特表2006-519930(P2006-519930A)
【公表日】平成18年8月31日(2006.8.31)
【年通号数】公開・登録公報2006-034
【出願番号】特願2006-504525(P2006-504525)
【国際特許分類】
Ｃ２１Ｃ　7/072　(2006.01)
Ｃ２１Ｃ　5/48　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ２１Ｃ　7/072　Ｊ
Ｃ２１Ｃ　5/48　Ｂ
Ｃ２１Ｃ　5/48　Ｃ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成21年12月14日(2009.12.14)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２４】
一実施形態によれば、一実施形態によれば、毛細管チャネルの流れ横断面（すなわち、流れ作用横断面）は第１端部におけるガス供給管の流れ横断面及び／又は第２端部におけるガス・チャネルの流れ横断面より少なくとも５０％小さい。この実施形態では、毛細管チャネルの流れ横断面はガス供給管及び／又はガス・チャネルに関して引用されたものの５０％より極めて小さく、例えば、７０％、８０％、９０％より小さい。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ガスが供給される第１端部と前記ガスが解放される第２端部と、の間に連続する部分（３、２、４、１）を具備する金属溶融物用耐火セラミック製ガス・パージング要素であって、
ａ）前記第１端部（Ｅ１）内に排出する少なくとも１つのガス供給管（５）と、
ｂ）第１ガス分配器チャンバ（３２）内に排出する前記ガス供給管（５）と、
ｃ）前記第１ガス分配器チャンバ（３２）から第２ガス分配器チャンバ（１６）まで前記ガス・パージング要素の軸線方向に伸びる多数の毛細管タイプチャネル（１０）と、
ｄ）前記第２ガス分配器チャンバ（１６）から前記ガス・パージング要素の第２端部（Ｅ２）まで延在する少なくとも１つのチャネル（６）と、
ｅ）前記毛細管チャネル（１０）の各々は前記第２端部（Ｅ２）における前記ガス・チャネル（６）の流れ横断面より少なくとも９０％小さな流れ横断面を有すること、
を備える金属溶融物用耐火セラミック製ガス・パージング要素。
【請求項２】
第１及び第２ガス分配器チャンバ（３２、１６）の各々は前記毛細管チャネル（１０）

の横断面積の合計より大きな横断面を有する、請求項１に記載のガス・パージング要素。
【請求項３】
前記第１ガス分配器チャンバ（３２）内に排出する前記ガス供給管（５）は、前記第１端部（Ｅ１）と前記第１ガス分配器チャンバ（３２）との間の軸線方向距離より大きな長さを有する、請求項１に記載のガス・パージング要素。
【請求項４】
前記ガス供給管（５）は螺旋又は渦巻き線及び／又蛇行のように湾曲している、請求項３に記載のガス・パージング要素。
【請求項５】
前記ガス供給管（５）は処理されるべき前記金属溶融物の温度より下の温度で溶融する材料製である、請求項３に記載のガス・パージング要素。
【請求項６】
互いに対して連結される別々の部分（３、２、４、１）の各々は鋼製又は耐火セラミック材料製管（１４、１２、１７、９）内に配置される、請求項１に記載のガス・パージング要素。
【請求項７】
前記部分（３、２、４、１）は鋼製又は耐火セラミック材料製の共通管内に配置される、請求項１に記載のガス・パージング要素。
【請求項８】
前記第２端部（Ｅ２）における単数又は複数の前記ガス・チャネル（６）はスロット状タイプ、又は三角形流れ横断面を有する、請求項１に記載のガス・パージング要素。
【請求項９】
全長に亘る円形状横断面を有する、請求項１に記載のガス・パージング装置。
【請求項１０】
横断面が前記第１端部（Ｅ１）から第２端部（Ｅ２）に向けて減少する、請求項９に記載のガス・パージング装置。